

## 都會兒童の爲めに遊園地を

青 木 醇 一

この頃町を通ると、小さい可愛い子供達が、通行人に遠慮し、通る自働車電車におびやかされながら、小さくなつて爪上げをしたり、羽根つきをしたたりして居るのを見うけます。都會の子供達は、一年中で一番楽しいお正月にすら、自由な氣持ちで遊ぶことの出来ないのは、ほんごに氣の毒に感じます。今頃、田舎の子供は、廣々とした野に出で、頬をばら色に染めて、嬉々として遊び戯れてゐるではありませんか。實際都會の子供は可愛いさうです。都會の子供等の爲に、遊園地をつくつてやらなければならぬ、と云ふ考へが、いつもこの様を見るたびに、頭に迫つて來ます。神田明神のわき、淺草橋のほとり、數寄屋橋のほとり等に見る、あのやうな小公園を、到る所に澤山ほしいのであります。日比谷とか、上野とかいふ大公園も、勿論東京市にはもつと多くあつて欲しいのでありますが、それよりも必要なのは、この小公園であります。

都會の子供等は、狭い、日光のよく通らない家屋に住んでゐて、何か遊ぶうと思へば、電車の通る道路より外ないのであります。不衛生な家屋にいちけて育ち、外に於ては不潔な塵埃と、柔い子供の神經を破壊する車や人の雜沓等で、絶えず身心を刺戟して、不健康になるのであります。又一方から云へば、交通の便を子供に依つて妨げられる事になります。どの方面から見ましても、自他共に不利益なことであります。

小公園を出来るだけ多くして、子供達が時間を費さないで、其處へ行ける程度に、多數設立することが必要であります。其處には、樹木を植えて塵埃をよけるやうに、ブランコとか、スベリダムのやうな簡単な運動器具を備へて置きます。

市内にこの小公園を設立すると共に、幼稚園、小學校の運動場を開放する事でありました。暑中休暇には開放する學校が次第に多くなりましたが、冬季に

も、日曜、祭日にも、開放して欲しいと思ひます。さうすれば、子供等は喜んで其處へ出かけて行つて、遊ぶでせう。子供自身も楽しければ、親達も安心いたします。

又、幼稚園、小學校の運動と云ふと、大抵廣い場所を取つてあるばかりで、何の木も草もなく、所謂ランニングをするところとか、野球の運動場等にふさはしくしてあるのであります。この様な運動場も、小學校の上級生位になつたら必要でありませんが、小さい子供のは、このグラウンド式でなく、庭園式にして欲しいと思ひます。

殊に幼稚園の遊び場は、廣くなくともよろしいから、草木を多く植え、子供がいちる事の出来るやうな花壇があり、子供が喜んで世話する家禽類を飼つて置くといふやうにします。さうしたら、不完全ながらも、子供達は自然に接する事が出来やうと思ひます。

市内に於ける小學校全體の児童數と、全體の運動場の面積の比を見ますと、一坪に三人といふ事でありますから、狭いところで五人も六人もといふ割合になりますでせう。未だ誰も試みてゐませんが、

家屋の疊數と子供との比を、この小學校の場合のやうにして、計算して見たら、疊一枚に何人といふ子供の數になるかも知れません。考へて見ると、どうしても、子供等にもつと廣い空間を與へてやらなければならぬと、つくづく感じます。

富豪が近頃庭園開放を實行して呉れるのは、實に結構な事と思ひます。立派な人工を加へた庭園を觀賞する爲めに開放してくれるよりは、子供等の遊び場として開放してもらふ事を望んで居ります。

大人も、この都會の悪影響から身心を保護することは必要であります。子供の方は、身心が發達する盛りにあるのですから、尙更必要なのであります。大人には影響もさほど強く受けないのですが、子供は身心が一定にかたまつてゐませんから、とても甚だしく受けるのであります。子供を一更保護する必要があります。

私は職業上子供に接する機會が多いのであります。都會に住居する壓迫から身心に發達を妨げられた子供を、度々見うけます。小公園の設立等も、學校の教育家庭の親達、擧つて叫んだならば、幾ら經濟上にむづかしい等と云つても、市が設備して呉れることだらうと思ひます。